

「無

人芝刈機導入で質の高い
コースを目指します」

そう語るのは栃木県内に3コースを運営する鹿沼グループ・コース管理統括部の橋本進部長（経営管理本部）。そのひとつ、鹿沼CCは2月末に1台2000万円以上の無人芝刈機『パロネス無人芝刈機ULM271』（共栄社製）をフェアウェイ用に2台導入した。3月にテストを行い、4月から本格稼働の予定だ。導入の経緯を橋本部長が説明する。

「鹿沼CCは45ホールですが、コース管理の人員は19名。通常のゴルフ場では9ホールに5名なので2割少ない人数で管理しています。ご多聞に漏れず、コース管理は募集しても人が集まらない。その中で安全も確保しなければなりません。今回の無人機導入でフェアウェイの芝刈りに人員の余裕が生まれ、その分を他の作業に回せるため、コースの質向上を目指せると思います」

有人での芝刈りは、最終組のスタート後、日没までの時間に最多でも9ホールが限度だった。45ホールの場合は5日間。それが無人機2台の導入で3・5日に短縮できる。

「つまり、週に2度フェアウェイを整備することができるんです」

さらに驚くことがある。その精度についてだ。

「ベテランのスタッフでも5〜10cmは左右のズレが生じますが、この無人機では±1・5cmのズレなんです。格段にフェアウェイが綺麗に見えるのです」

安全面も大きく改善する。芝刈りは最終組のスタート後に行われるため、時間との勝負。どんなに日が長くても最大9ホールが限度で、日没ギリギリまで作業を行えば管理棟に戻る頃には真っ暗闇。鹿沼CCでは

暗くなる前に管理棟に戻る決まりがあるが、中途半端に終わらせるわけにはいかない。

「それが無人機なら、夜間に動かせます。どのホールのどこで無人機が作業しているかも、WEB経由でリアルタイムにわかります。人が操作することによる事故も起きず、安全性も担保できるのです」

導入準備も簡単。人が一度だけ無人機を操作して通常の作業をするだけで機械が作業を記憶する。GPSなど測位システムの活用によるもの

だが、20度を超える傾斜や動物などが接近すると自動停止。無人機自体の安全性も確保できる。コスト面について橋本部長は、

「有人の芝刈機でも1台1000万円以上するので、今回の無人機はその2倍ですが、有人機は日没までに猛スピードで作業するため機械に負担が掛かります。夜間作業ができる無人機は作業速度を落とせるので機械への負担も軽減できる。コストダウンにもつながるでしょう」

人件費だけではなく、機械の償却も長く見積もれるというわけだ。

鹿沼グループは県内3コースで108ホールを運営し、「また来たいゴルフ場」を標語に掲げる。その鍵のひとつがコースの質向上だが、ゴルフ場共通の悩みとして人手不足が深刻だ。橋本部長は、

「個人的な希望ですが、将来的には無人のラフ用芝刈機、バンカー均し機も導入したいですね」――。

と機械化に前向きな構え。ゴルフ場のDX化が叫ばれる中、同社は一昨年、全3コースに自動精算機の設置も終えている。機械に任せるところと人にしかできないサービスのメリハリをつけて、人手不足の時代に備えていく。

（吉村）



04

ゴルフ場の課題「人手不足」に 無人芝刈機で対応する鹿沼CC

無人芝刈機の導入が人手不足を解決する